

## ルカによる福音書22章31-32節 「篩に掛けられるペテロ」

### 1A サタンの標的にされるペテロ 31

1B 教会の指導者のつまずき

2B 麦のような粗さ

3B 聞き届けられる願い

### 2A 信仰がなくならないようにする祈り 32

1B 試練によって清められる信仰

2B 執り成しをしておられる主

3B 清めを断罪に利用するサタン

### 3A 兄弟たちを力づける働き

1B 弱さを身にまとわれたキリスト

2B 塵に過ぎない人を慰める働き

## 本文

私たちの聖書通読の学びは22章に入っています。午後礼拝で、22章24節から最後71節までを一節ずつ読んでいきます。今朝は、22章31-32節に注目したいと思います。「**31 シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。32 しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。**」

イエス様が、十字架に付けられる最後の夜、弟子たちと過越の食事をしている場面です。そこで、ご自身を裏切る者がいると言われました。弟子たちの間に、いったい誰なのか？という議論が起こりました。それに矛盾しているかのように、誰が一番偉いのか？という議論もしていました。イエス様は優しく、しもべになる者が最も偉大なのだと言われた後で、慈しむ心でペテロにとって、聞きたくない辛い出来事を語られました。彼が、サタンによってふるいに掛けられるということです。彼は大きくつまずく、ということです。34節にイエス様が言われていますが、「今日、鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」ということです。けれども、そのようにペテロがイエス様を三度も否むいうことを経た後でも、それでも信仰が無くならないように、イエス様は既に執り成して、祈っておられました。そして、その祈りも聞き届けられました。その後ペテロがしなければいけないこと、つまり、同じように弱められ、つまずいてしまった兄弟たちを力づけてやりなさい、と命じられます。

今朝は、私たちには、獅子のように信者を食い尽くそうとする悪魔の攻撃があるということ。けれども、そのような試練や誘惑の中にあっても、なおのこと主はそれをお見通しで、私たちが揺るぎない信仰を持つように清められることを見ていきたいと思えます。

## 1A サタンを標的にされるペテロ 31

### 1B 教会の指導者のつまずき

イエス様が、ペテロの名前を二度、繰り返して呼んでおられます。他の聖書の箇所でもそうですが、神が二度、名ざしで声をかけられる時は、本当に親しみを持っている、心にかけている人を呼ぶ時にそのように二度、呼びかけています。イエス様は、ペテロが初代教会の指導者になることを知っておられました。ピリポ・カイサリアにて、ペテロがイエス様のことを、「マタ 16:16 生ける神の子キリストです」と告白したのです、イエス様はその告白の上にご自身の教会を建てると明言されました。そして、ペテロに天の御国の鍵を与えとも言われました。

ペテロは、ヨハネとヤコブと共に、イエス様の行われる奇跡を目撃するために呼ばれていました。ヤイロの娘を主が生き返らせるのは、この三人の弟子だけが見ました。そして、高い山に連れて行かれたのも、その三人です。変貌したイエス様のところに、モーセとエリヤがいた時、その時に前に出て語り始めたのは、ペテロです。以前、水の上を歩かれていたイエス様に対して、水の上を歩かせるように命じてくださいとお願いして、少し水の上を歩いたのもペテロです。彼は自然に、率先して動く素質がありました。そしてイエス様は、彼に御国の鍵を与えと言われて、教会の指導者にすることを明言しておられました。

そのペテロに対して、サタンが籬に掛けようとしていたということです。サタンは既に、イスカリオテのユダの中に入り、主を裏切るように仕向けていましたが、今度は、ペテロを標的にして、彼が落ちるように籬に掛けています。それはとりもなおさず、主がペテロを教会の指導者として立てようとしておられたからです。前回は、サタンの仕業の一つに、仲間の中に背を向ける者を作り、交わりを壊すようにさせるところを見ましたが、今は、「教会の指導者を潰すことによって、羊たちを散り散りにさせる」ということを見ます。霊的な指導者が倒れれば、その指導の下にいる人々をも躓かせることができます。ダビデのことを思い出しますが、歴代誌第二 21 章を見ると、「サタンがイスラエルに向かって立ち上がり、イスラエルの人口を数えるように、ダビデをそそのかした。(1 節)」とあります。その結果、疫病によってイスラエル人が七万人倒れました。サタンは、神とキリストのご計画を熟知しているので、神の愛される、選ばれた者たちを狙い打ちします。

### 2B 麦のような粗さ

ここで、「サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかける」と主は言われています。

私たちは、「塩」という言葉や、ここでの「麦」という言葉を聖書で聞いた時に、今の精練された塩や、精練された小麦粉のことを思っはいいけません。どうしても、そういったものを思い出しますが、そうではないですね。例えば日本史の中で「米」という言葉を聞いた時に、今の白米を思い出すと、そこまで精米できているのは珍しいですから、玄米のようなものを想像しないといけないのと同じです。小麦粉が売られていても、まだ麦の殻が残っていたり、麦の胚芽の部分が残っていたりします。ですから、麦の殻を除去して、さらに、まだ潰されていない麦の粒を石臼によって粉にしないと

いけません。その過程、プロセスがここで言っている「ふるいにかける」という意味です。

これは、ペテロにはまだ、そういった不純物がある麦のような存在として、イエス様は喩えておられるのです。ペテロには、人々を導いていく生来の能力がありました。けれども、まだまだ粗削りで、精錬される必要がありました。その信仰が清められる必要がありました。

ペテロは確かに、イエス様が、「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか？」と尋ねられた時に、いち早く、「生ける神の子キリストです」と答えました。主はその答えを祝福されて、「マタ 16:17 このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられるわたしの父です。」と言われました。けれども、ご自分がエルサレムに行って、宗教指導者たちに裏切られ、苦しみを受けて、殺されて、そして三日目によみがえらなければならないと話された時に、ペテロは、「イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。『主よ、とんでもないことです。そんなことがあなたに起こるはずがありません。』』とあります。イエス様は、「下がれ、サタン。あなたは、わたしをつまずかせるものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」と叱責されたのです。ほんの少し前には、天から明らかにされたとして祝福されたのに、今は、「下がれ、サタン。」と言われて、サタンのそそのかしを受けていたのです。

その他、金持ちの青年が、イエス様の言葉に悲しみを覚え、いなくなった時に、金持ちが神の国に入るのは、らくだが針の穴を通るよりも難しいと言われていました。けれども、人にはできないことが、神にはできるとイエス様は励まされました。そこでペテロは、「18:28 ご覧ください。私たちは自分のものを捨て、あなたに従って来ました。」と言っていますね。何か報いがありますか？ということを期待して、そう話しました。イエス様は確かに報いを受けることを語られましたが、先の者が後になり、後になることも語られました。兄弟が罪を犯した時に、赦すことについても、「マタ 18:21 主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」と言いましたね？七回までであれば、赦せるのでは？と思ったのでしょうか。彼は、冒険好きなのですが、まだまだ自分の力に頼るような粗さがあったのです。そして最後の晩餐の場においても、だれが偉いのかという議論をしていましたが、ペテロは、自分こそが偉いのだという野望は隠せなかったのではないかと想像します。

つまり、ペテロが率先して前に出て来るというのは、生まれながら持っているその力なのですが、それを主が用いられるのですが、しかしそこにある不純物があって、サタンがそれを最大限に利用して、彼をつまずかせるよう企んでいたということです。私たちが、「自分はこの部分が弱い」と強く意識しているところは、主に拠り頼むので恵みによって強められます。けれども、「自分はこの部分においては、別に心配することはありません、大丈夫です。」という部分が、最も危ないです。その時に、主に拠り頼む必要があるというのを忘れてしまい、自分自身に拠り頼んでしまうからです。その性格上の強さこそ、御霊にではなく肉に拠り頼んでしまう誘惑があり、サタンがそそのかします。

### 3B 聞き届けられる願い

イエス様は、「聞き届けられました」という驚くべきことを言われています。サタンの願いを、父なる神はお聞きになることがあるのです。ヨブの例が代表的でしょう。ヨブが正しいところで、全き人であったのに、サタンがヨブを試すために、その財産に触れ、彼の健康にも触れることが、聞き届けられました。そこには、神の深い懐を垣間見ることができます。どうして、サタンが人々を誘惑するのを、神は許されることがあるのか？と思います。けれども、ここから私たちは慰めを受けなければいけません。それは、「サタンでさえ、神の主権の中にあり、神の支配から免れることはできない。」ということです。サタンは、神とそのご計画に猛烈に反対し、それを台無しにしようとしています。その邪悪な企みでさえ神にとっては想定内であり、神が必ず勝利しておられるのだということを知ることができるからです。

そして、サタンの反対する仕業でさえが、神の栄光を現すように逆転されるということを示しています。アダムが罪を犯した後に、蛇に対する神の言葉が、それを物語っています。「創 3:15 彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」であります。サタンがかかとを打つことは許されるけれども、その間に、頭を打つという決定打をキリストが与えます。暗闇の勢力が迫って、イエス様はこれから十字架に付けられますが、しかしそのことが、全人類の永遠の救いの礎になるのですから、サタンに対する決定打なのです。ペテロがつかまずくのも、サタンがそそのかすからなのですが、しかしそれによって彼のその後の信仰の姿はがらりと変わります。

### 2A 信仰がなくならないようにする祈り 32

イエス様は、「しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。」と言われました。イエス様は、サタンがペテロを狙っていたのを見て、狙わないように祈りませんでした。そのような信仰の試みを受けないようにも祈りませんでした。私であれば、霊の戦いであれば、そうなってほしいと願います。教会の指導者になるような人が、そのようなつかまずきを通してしまっているものだろうか？とってしまいます。

### 1B 試練によって清められる信仰

けれども主は、もっと深い、思慮に富んだ知恵をお持ちでした。それは、彼の霊的な未熟さが、この試みによって精錬され、成熟するということを祈っておられたのです。ところで、ペテロが手紙を書いている時、彼の手紙を読んでいる時に、彼自身が失敗を通ったということを知った時に、深い慰めを得ました。

彼は、第一の手紙で、試練というのは信仰を清める働きがあることを話しているのです。「I ペテ 1:6-7 そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいますが、今しばらくの間、様々な試練の中で悲しまなければならないのですが、試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であり、イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします。」試練によって試されると、信仰が精錬されて、それこそが金よりも尊い財産であることを話してい

ます。そして悪魔が食い尽くそうとしているとペテロが5章で警告していますが、こうっています。「I ペテ 5:8-10 身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。堅く信仰に立って、この悪魔に対抗しなさい。ご存じのように、世界中で、あなたがたの兄弟たちが同じ苦難を通してきているのです。あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあって永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみの後で回復させ、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。」この言葉を読んで、「自分は悪魔の試みを受けたら、絶対に失敗してしまう。立ち向かうことはできない。」と思ってしまう。ペテロのような強靱な信仰であれば、対抗することができるかもしれないけれど、と思ってしまう。けれども、ペテロは見事に悪魔の試みに負けてしまいました。しかし、実は、勝利していたのです。彼は、実は自分の力ではなく、神の力によって、恵みによって強められるのだよ、ということを教えてくれているのです。「あらゆる恵みに満ちた神」とペテロは言っていますが、自分の霊性や力ではなく、神の恵みによって、苦しみを通って、それで信仰が強められ、堅くなり、不動の者になっていくのだ、ということです。神の恵みとは、こんな自分にも拘らず、主が偉大なことを成し遂げてくださるということです。

### 2B 執り成しをしておられる主

そして、その間、すべてのことを知っておられて、すべてが想定済みで、イエス様はペテロのために祈られたことを覚えてください。ゲッセマネの園で、一緒に祈ることが出来ず、眠ってしまうこと。そして、捕える者たちが来て、性急にその一人の耳を剣で切り落とすこと。そして、カヤパの邸宅で、中庭で敵と共に焚火で体を温めていたこと。そして、三度も、イエス様を知らないと言うこと。これらをすべて知っておられて、それで祈られたということ覚えてください。

イエス様は、私たちが苦しみの時に、試練の時に祈っておられる方です。ローマ8章の後半は、苦しみをローマにいる信者が受けることになることを想定して、それで、パウロは、彼らを励ますために、18節から最後、39節まで延々と、苦しみの中にあっても助けられることを励ましています。18節から、「今の時の苦難は」という書き始めで、苦難を受けている私たちは守られていることを話しているのです。苦しみを受けると、私たちは「自分たちの中に何か罪があるから、それでこうした苦しみを受けているのだ。」と思ってしまう。しかし、それは異教の教えです。福音の真理はこう教えます。ローマ8章34節です、「だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしてくださるのです。」そして、どんな試練や苦しみであっても、キリストにある神の愛から、私たちを引き離すことはない、ということです。ヘブル書にも、大祭司なるイエス様の執り成しの働きが書かれています。「7:25 したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります。」

### 3B 清めを断罪に利用するサタン

イエス様は、「**あなたの信仰がなくならないように祈りました**」と言われます。主は、サタンが何を

するのかを初めからご存じでした。信仰が清められることは必要ですが、サタンはそうした清めの働きを、罪定めのために利用しようとするのです。ここが、サタンの最大の武器とも言えます。兄弟たちの告白者であるとも、黙示録 12 章に書いてあります。私たちが失敗すると、もう自分は取り返しのつかない罪を犯したから、イエス様にもう従うことはできないと、落ち込ませるのです。自分のようなものが、神の働きをすることはできないとして、神の恵みによって救われて、神の恵みによって今の自分があるのに、自分の失敗に注目させて、それでイエス様に従うことはできないと思いきませようとするのです。

自分が最も強いと思っていたところで、ことごとく失敗するのですから、その時の衝撃は一たまりもありません。もうこれでは、自分はクリスチャン失格だと思うのです。それで、信仰から離れてしまうのです。そのようなことがないように、祈りました、とイエス様は言われます。私は、自分はこの部分で失敗しないぞ！と決意した部分で、再び失敗します。それで、もう自分は救われていないのだ！とまで絶望してしまうのです。実はパウロもその絶望を味わいました。「ローマ 7:24 私は本当にみじめな人間です。だれがこの死のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」と言いました、けれども、そこで神のとてつもない愛を発見するのです。続けてこう言うのです、「8:1 こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」パウロは、サタンがどういうところで私たちをふるいに掛けるのか、よく知っていたのです。イエスご自身が、信仰がなくならないように、祈られたように、です。

### 3A 兄弟たちを力づける働き

そしてイエス様は、「**ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。**」と言われます。ペテロは悔い改める様子が、福音書には書かれています。ルカ 22 章の最後は、彼がむせび泣く姿で終わっていますが、ヨハネ 21 章で、ペテロが主を三度、愛しますと告白している部分があります。彼は、三度、イエス様を知らないと言いましたが、三度、イエス様を愛していることを話します。イエス様は、彼を愛しておられました。そうやって、ペテロがやり直しをすることができるようにされたのです。そして、その度に、「羊を飼いなさい」と言われたのです。つまり、彼自身が立ち直って、それで、その憐れみと慰めによって、他の羊たちを養いなさいと励まされたのです。実に、彼が牧会者として召されたのは、彼自身がとてつもない過ちを犯したことを知って、その後でした。何か優れたことを行ったのではなく、失敗した後に立ち直った時に、召されたのです。ここに、新たな働きが始まりました。「兄弟たちを力づける働き」です。

### 1B 弱さを身にまとうたキリスト

イエス様は、私たちが試みに遭うようにされるのですが、それは、同じような所を通った人々を憐れみ、慰め、力づけることができるようにするためです。主ご自身が、罪を持っておられないのにもかかわらず、弱さを身にまとうために肉体を取られました。「ヘブ 4:15-16 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただ

いて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」私たちが弱さを身にまとっているから、だからこそ、私たちは折にかなった助けを受けるために、神の御座に大胆に近づくことができるようになります。

## 2B 塵に過ぎない人を慰める働き

私たちは、自分の失敗や弱さ、また罪をどうしても隠してしまう傾向にあります。それは、全き愛、キリストにある全き愛を知らないのだから、人間はそういうところを見たら、責め立てるので、それで防衛機制が働いて、見せないようにするのです。けれども、罪人のためにキリストは死なれた、ということを知ることによって、初めて私たちはキリストとの交わり、神の命にあずかれます。

人は、か弱いものです。そして、神は私たちが弱いことを、よくご存じです。「詩 103:14 主は私たちの成り立ちを知り私たちが土のちりにすぎないことを心に留めてくださる。」ですから、神は私たちが慰め、その土の器の存在であることを知っていて、その弱さの中でご自分の栄光を現すことを決めておられます。そこで大切なのは、慰めの奉仕です。パウロは、多くの苦しみを通りましたが、そのことから知ったのは、神の慰めであり、また自分が神の慰めをもって他の人を慰めることができるようになる、ということでした。「Ⅱコリ 1:3-6 私たちの主イエス・キリストの父である神、あわれみ深い父、あらゆる慰めに満ちた神がほめたたえられますように。神は、どのような苦しみのときにも、私たちが慰めてくださいます。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます。私たちにキリストの苦難があふれているように、キリストによって私たちの慰めもあふれているからです。私たちが苦しみにあうとすれば、それはあなたがたの慰めと救いのためです。私たちが慰めを受けるとすれば、それもあなたがたの慰めのためです。その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐え抜く力を、あなたがたに与えてくれます。」

ですから、繰り返しますが、ペテロが教会の指導者として後に立ち、そして手紙を書きましたが、それは上から目線で、こうやりなさいというものではありませんでした。自分が誘惑に負けたところから同じ目線で、神の恵みによって強められることを願って、そして書いた手紙でした。主の恵みによって強められてください。